

トピックス・・・「徒歩帰宅訓練」

2005年1月に阪神大震災をトリガーに始まったという「災害時徒歩帰宅訓練」に参加したことがある。東京都庁下の広場に集合して500円の参加費を支払うと、地図とペットボトルの水とカロリーメイト1箱を渡され、各自の責任で自宅まで帰るというだけのイベントである。

当日はみぞれ交じりの寒い日であったが、当時住んでいた東村山までの約25kmを通勤ルートの西武新宿線沿いの新青梅街道を中心にして5時間半休むことなく歩いた。(地図の①からスタート)実際に歩いて見ると、コンビニやレストラン、橋の有無、道路の起伏などいろんな事が分かるとともに、「自分で歩いて帰れる」という自信も付いた。もちろん、歩くためのスニーカーを履いていたので、災害時に対応できるように、会社に行くための靴を常備する必要があることも分かった。特に、女性はハイヒールなどでは長距離の歩行は困難であるので、気を付けた方がよい。

2011年3月11日の午後2時46分 宮城県沖でM9.0の国内最大地震が発生した。ちょうど社内オフィスに居て、名古屋に電話していた時だった。経験した事のない大きな揺れで、電話を切って机の下に潜り込んだ。

地震発生直後からJRや地下鉄、私鉄各線は線路の設備点検を行うために一斉に運行停止。想定されたことであるが、「帰宅難民」という言葉が現実のものとなった。とても歩いて帰れない遠距離の人は、会社や公共施設で一夜を明かした人が多かったようだが、歩いて帰れる距離の人は、歩いて帰るしかない。

帰宅訓練に参加したこともあって、今回の地震時に歩いて帰ることにしたのだが、会社の所在地の関係で歩く距離は10km程延びている。(地図



黒岩 正信
KUROIWA Masanobu

本誌編集企画小委員長



の②からスタート)会社を出るに当って、帰宅ルートの地図をパソコンで出力し持ったのだが、歩く距離が長いので細かい部分は勘で歩くしかなく、途中交番で確認しながら歩いた。ラジオ放送各局が協力して公共インフラの災害情報・交通情報を流しているので、携帯のラジオも必携で、情報を確認しながら歩く必要がある。

実際に歩いてみると、ほとんどの人が通勤時の革靴やハイヒールである。地震直後にビルから出されたまま、ヘルメットを被り、非常持ち出し袋を背負っている人もいる。車道は車の大渋滞に進まない。後で分かったことだが、迎えを頼んだ自家用車が渋滞の一因だったらしいので、注意が必要であると思う。バス停にも長蛇の列が出来ていたが、バスも来ないようだ。幸いなことに、今回は途中で西武新宿線が動き始めたことが分かったために約4時間歩いた所で一番近い駅から電車に乗れることになったのだが、家に着いた時は会社を出てから6時間以上経っていた。貴重な経験であった。

日本は地震国で明日は我が身である。ぜひ一度災害時を想定して、会社から自宅まで歩いて帰ってみて欲しい。自分の帰る方向が分かるとともに、どんな危険な場所があるか、どこに交番があるか、コンビニを始めどんな店があるかなど多くのことに気付かれることと思う。

自治体主催の徒歩帰宅訓練イベントも行われているところもあるので、それに参加するのでも良いであろう。ぜひ、帰宅難民にならないための備えをお願いしたいと、今回の経験を通して強く思っているところである。